

Book Review



X線写真クイズ

1枚のデンタルから何を読み取るか？

鷹岡竜一 著

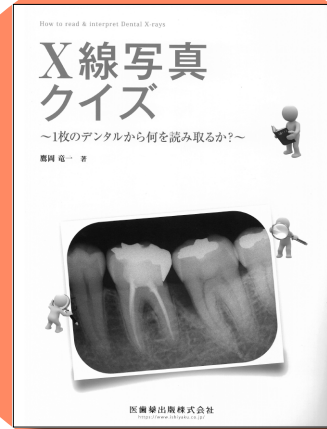


Reviewer

千葉英史 Hidefumi Chiba

(千葉県・医療法人社団千葉歯科医院)

A4判変、オールカラー、
168頁
定価(本体6,300円+税)
医歯薬出版刊



書名は地味だが

鷹岡竜一先生が臨床に関する初めての単著を上梓された。港区高輪というセレブがたくさん住んでいそうな地で開業しながら、「1枚のデンタルから～」とは、なんとも地味な書名である。しかし、読ませていただくと正統派の奥深い臨床が満載で、若い歯科医師、歯科衛生士がクイズに答えながら読み進めれば、自ずとX線診断の基本が身につくとともに、臨床のあり方の示唆も受けられる“虎の巻”であった。

デンタルX線写真の世界

デンタルX線写真(以下デンタル)は、生体の内部を覗く窓であり、そこには大きく神秘的な世界が広がっている。病態を把握するため、治療の効果を判定するため、回復した組織の安定を確認するため、などで撮影するが、その世界をどこまで読み取れるかは術者の技量による。読み誤れば、疾患を治せないだけでなく、生体に不可逆性の侵襲を、患者に不利益を与えてしまいかねない。それゆえ、デンタルの質の確保と読影の研鑽は必須のはずだが、これらを軽視している人は意外に多い。今はCTがあるから、なんて考える人は、本書のクイズは全然答えられないかも。

概論編に学ぶ

本書の構成は、前半3/4が「クイズ編」、後半1/4が「概論編」となっている。「クイズ編」は実習、「概論編」は座学の趣である。

「概論編」は「クオリティの高いX線写真の必要性」「時は語る」「骨のリスクを読む」からなり、読影の基本をまとめるとともに、著者のデンタル、そして臨床への思いに溢れている。読影に自信がもてない人は、ここで予習をしてからクイズに臨むとよいだろう。

また、ここでは、病態の把握だけでなく、デンタルに写し出される個体の特徴をとらえることの大切さが強調されている。1枚あるいは全顎のデンタルから、その背景まで推測する。これは高度な読影術で、臨床初心者には難しいことだが、そこまでマスターできればデンタルの世界を理解できたといつてよいと思う。

クイズ編でチャレンジ

「クイズ編」はエンドペリオ病変、垂直性骨欠損、根分岐部病変などに関する27のクイズからなる。選択肢のうちから一つに丸をつければよいわけではなく、1枚のデンタルを提示して「何が読める？」というクイズなので、

デジタル世代の読者は難しく感じるかもしれない。しかし、これは臨床に近く、また、読影を学ぶには欠かせない手法だ。実際の臨床では問診、視診、プロービング、動揺診査などに、デンタルを照らし合わせて診断していくが、客観的に1枚のデンタルを読み切ることができなければ、正しい診断はおぼつかない。デンタルにも騙されることはあるが、本書にはその対策も記載されており、それも身につけていくことで、より高い診断力が養われる。

また、このクイズのよいところは、診断した歯の治療と経過が示されている点にある。口腔内写真も類似症例もある。多くの症例の中には長い経過の中で問題が生じたものもあるが、安定していた組織のほころびが、どこに現れるのかを観察することも貴重な疑似体験となる。

最後にクイズ

さて、最後に私からクイズを一つ。本書のクイズのうちで最も注目してほしいと思ったものはどれでしょうか？

答えはQuiz 25。書名と同じくらい目立たぬ1枚だが、デンタルの可能性と限界がよく現れているから……チャレンジしてみたくありませんか？